

学群・学類の再編について(平成 19 年 4 月予定)

筑波大学の学群・学類制度は、本学を特色づける教育システムとして、既存の学問分野を超えた自由度の大きい教育サービスの提供等を通じ、学生の多様なニーズに応えるとともに、確かな学力と広い視野を持った人材の育成に、重要な役割を果たしてきました。

今後、国公立・国内外を問わず大学間競争が一層激化するとともに、人材育成に対する社会のニーズがさらに高度化・多様化する中、大学教育の質のさらなる向上を進めていくためには、教育の方針や内容を社会によりわかり易い形で伝えるとともに、社会的要請の変化や学問の進展を踏まえ、教育内容を一層充実させていくことが不可欠です。

このような考え方にに基づき、学群・学類再編を法人化後の筑波大学の最重要施策の一つに位置づけ、中期計画に織り込むとともに、昨年秋以降、全学的な検討体制を整え、産業界や受験・就職の専門家など学外有識者の提言、経営協議会における学外委員の意見なども幅広く取り入れながら、再編案を検討してきました。

本日、役員会における審議を経て、再編案が決定しましたので、お知らせいたします。

今後、文部科学省における所定の手続きを経て、平成 19 年 4 月に新たな学群編制に移行する予定です。

1. 学群再編の考え方と編制の骨子

- (1) 本学の学群・学類制度は、既存の学問分野を超えた自由度の大きい教育サービスの提供等、本学を特色づける教育システムであり、社会的要請の変化や学問の進展に柔軟に対応し得るとともに、学生の幅広い興味・関心に応え得る仕組みであることから、今後も本制度を維持し、改善を積み重ねながら、さらに充実させていくこととします。
- (2) 第一、第二、第三学群のいわゆるナンバー学群を再編し、学問的に近い複数の学類を一つの学群の下に再編することにより、受験生や社会にとってわかり易い編制にするとともに、共通のコア・カリキュラムの編成や学類を超えた科目履修などが、さらに容易に行える仕組みを整えます。これにより、ナンバー学群は、「人文・文化学群」、「社会・国際学群」、「人間学群」、「生命環境学群」、「理工学群」に再編されます。
- (3) 筑波大学と図書館情報大学の統合により設置した図書館情報専門学群については、第三学群の情報学類とともに一つの学群を編制し、情報や知識に関する幅広い学問領域を融合した「情報学群」とします。
- (4) 医学専門学群については、学群内組織の再編を機に、「医学群」と改称します。
「体育専門学群」、「芸術専門学群」は、本学を特色づける学問分野として、名称・編制とも現状どおりとし、さらなる発展を目指します。

2. 新たな学群・学類の編制案とコンセプト ～ 別紙1、別紙2

3. 学群再編の実施時期等

- (1) 今後、文部科学省における所定の手続きを経て、平成19年4月に新たな学群・学類を設置し、同時に学生を受け入れる予定です。
- (2) 平成18年度入学者までは、現行の学群・学類に在籍したまま学年進行します。

新たな学群・学類の編制案

2007年4月設置・学生受入

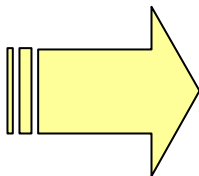
現行

計 2,062

改組後

計 2,062

第一学群(基礎)	400
人文学類	120
社会学類	80
自然科学類	200
第二学群(文化・生物)	440
比較文化学類	80
日本語・日本文化学類	40
人間学類	120
生物学類	80
生物資源学類	120
第三学群(経営・工学)	530
社会工学類	120
国際総合学類	80
情報学類	80
工学システム学類	130
工学基礎学類	120
医学専門学群	202
医学類	95
看護・医療科学類	107
体育専門学群	240
芸術専門学群	100
図書館情報専門学群	150



人文・文化学群	240
人文学類	120
比較文化学類	80
日本語・日本文化学類	40
社会・国際学群	160
社会学類	80
国際総合学類	80
人間学群	120
教育学類	35
心理学類	50
障害科学類	35
生命環境学群	250
生物学類	80
生物資源学類	120
地球学類	50
理工学群	520
数学類	40
物理学類	60
化学類	50
応用理工学類	120
工学システム学類	130
社会工学類	120
情報学群	230
情報科学類	80
情報メディア創成学類	50
知識情報・図書館学類	100
医学群	202
医学類	95
看護学類	70
医療科学類	37
体育専門学群	240
芸術専門学群	100

新学群のコンセプト

学群	コンセプト
人文・文化学群	<p>人文・文化学群は、人文系と文化系の学問の豊かな知見と確かな成果を基に、更にはグローバル化する世界も視野に入れながら、教育内容の質的・量的な充実を目指します。本学群は、基礎的な分野の教育を担う人文学類、学際的視点を重視した教育を行う比較文化学類、国際社会の中で日本語及び日本文化の発信を目指す日本語・日本文化学類という、各々独自の特色を有する3つの学類から構成され、多様で質の高い教育の実現と、優れたコミュニケーション能力を持ち、先見性・創造性・独創性に富み、国際的にも活躍できる、卓越した人材の育成を図ります。</p>
社会・国際学群	<p>グローバル化と情報化の急速な進展は、人間社会の営みを流動的で複雑なものとし、一つの地域的紛争が世界の人々を巻き込み、一つの国内政策が国際的に影響を及ぼす、といった新しい現象を生み出しています。社会・国際学群は、こうした変化する現代社会の諸現象を広い視野から分析して問題のありかたを的確に把握し、先見性、独自性に富む解決策を提示できる力を養い、社会の持続的発展を支える人材を育成することを目標としています。そのため、社会科学の基礎的、普遍的な考え方や分析手法を身に付ける一方、新しい学問の展開に対応した発展的、応用的な分野をより深く学び、専門性の追究能力とともに柔軟で自律的な思考力を涵養します。</p>
人間学群	<p>人間、社会、自然に関する幅広い興味と関心を基盤としつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらの態度・知識・技能を活用し実際的な問題を主体的・創造的に解決する能力を育成します。</p>
生命環境学群	<p>生命環境学群は、科学的にも社会的にも著しい進展を見せつつある「生命と環境」を共通キーワードとする3つの学類、すなわち「生物学類」「生物資源学類」「地球学類」から構成されています。本学群のコンセプトは、人間を含む多様な生物の生命現象、それを支える地球環境、さらには生物資源の保全や持続的活用に関する総合的探究を通して、豊かな人間性と問題発見・問題解決能力を養い、わが国の「生命と環境」分野の中心的な担い手となる人材、国際的視野に立って活躍できる未来創造型の人材を育成することです。</p>
理工学群	<p>理工学群は、理学と工学の主幹となる学問分野とともに学際的な分野も取り入れ、数学類、物理学類、化学類、応用理工学類、工学システム学類、社会工学類の6学類を置いています。理学と工学の領域において、持続可能な社会に必要とされる幅広い教養、論理的かつ柔軟な思考力、実践的技能、基礎から応用に至る確かな専門性を身に付けさせる教育を目指します。また、知的創造、問題発見・解決の能力を有する広い視野と豊かな人間性をもつ人材の育成を指向します。</p>

学群	コンセプト
情報学群	<p>人間は、知識や情報を記録し、共有し、利用する様々な技術とそれに基づく文化的・社会的システムによって現代社会を築きあげました。コンピュータやネットワークなどの情報基盤を発達させ、人間が持つ知識と情報を、効率よくかつ効果的に利用できる環境をさらに進化させることは、我々が将来に向けて持続的・安定的に発展していくために必要不可欠です。</p> <p>こうした社会的要請に応えるために、情報学群には情報科学類、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類の3学類をおき、知識と情報の記録、蓄積、共有、加工、利用といった諸活動に関わる様々な情報技術とともに、それによって支えられる人間の知的活動とその社会的・文化的基盤を十分に学び、社会や企業、大学や研究機関などにおいて将来をリードすることのできる人材を育成します。</p>
医学群	<p>社会が要請する新しい医療・医学研究に対応するために、卒業の時点で基本的な臨床能力を備えかつ良好なコミュニケーションを通して全人的医療を行える良医の育成、人権の尊重と科学性を基盤とした専門的看護実践学の修得により、広く人類の幸福に貢献し得る看護学関連の人材の育成、医療の向上と発展に貢献する医療科学領域の研究者および高度専門医療職を志向する人材の育成を各学類教育の目標として、お互いが機能的に融合しながら、医療のユニフィケーションの実現を目指します。</p>
体育専門学群	<p>体育・スポーツ・健康に関する最新の科学的研究成果を生かしながら、優れた運動技能と幅広い運動経験を持ち、かつ保健体育に関する総合的な知識を備えた、指導力と活力に富む人間性豊かな指導者の育成を目指します。</p>
芸術専門学群	<p>芸術専門学群は、総合大学の中に位置づけられた芸術教育の場としての特色を生かし、豊かな感性と知性に支えられた発想力と、柔軟で視野の広い思考力を育てながら、高い創造的能力を備えた美術・デザインの専門家を養成することを目指します。</p>